



1 山口さんが子どものころの様子。実家が製材所であり、酒屋だったので、生活に商売があった。2 山から切り出した原木と、製材後の材木。3 現在の商売道具、簡易式製材機と山口さん。丸太を材木にすることができる。



ときがわ町の山の木が有効活用されていない。だから、「山」と「建築」を結ぶ仕事がしたいと考えたんです。

「地元」の山の木で、地元の家を作りたいんです。ときがわ町にはこれだけ山に木があるのに、材料として使われていないのは、おかしいじゃないですか」そう語るのには、大字大野出身の山口直さん。38歳。都内の大学卒業後、やりたい仕事が見つからず、とにかく営業職を5年間こなした。成績はトップクラス。「でもやりたいことは見つからなかったんです」その後、人生を振り返る機会があった。「実家が製材所と、何でも売っていた酒屋で、いつも人が集まっていたんです。生活に『木』があって、『商売』があった。そこに心が落ち着く感覚があったんです」そして、木について知るため、リフォーム会社に就職。そこで、現場では日本の木が使われていないことを知り、冒頭の疑問を抱いた。問屋に聞いても、「需要がないから扱っていない」とのことだった。



“山と建築を結ぶ製材少年”

山口直さん(38) 大字大野出身



# ときがわ町に、戻ってきた若者たち

高校もなく、大学もなく、都会のような働き口もない、ときがわ町。しかし、それでもここに“戻ってきた”若者たちがいる。一度は出たものの、戻ってきた彼らの「しごと」と、「きっかけとなった人物」とは――

こんな働き方をしている人がいるのか、と思いました。そこから、私の働き方の選択肢が増えたんです。

「町外に出た高校生の頃から、町に戻ってくるとは思っていませんでした」と、大字玉川出身の栗原直道さんは述懐する。野球少年だった栗原さんは、町の高校に進学し、大学は寮生活。初めから起業することを考え、新卒で都内の花屋に就職。その後、整体を学び、都内の一等地に設備投資をして整体師として開業した。しかし、「子育てを東京でするイメージがわかなかった」という。「子どもが3人いると、単純に家が狭いうえに、両親のフォローがないんです」。29歳の時に3人目が生まれ、仕事は都内のまま、ついに戻ることを決心する。また、整体師は1対1で、単価も時間も、収入も決まってしまう。法人営業も学びたいと考えた。平成29年5月、31歳のとき、幼馴染のフェイスブックで、ときがわ町起業支援施設が完成したことを



身体も働き方も整える研修講師

栗原直道さん(37) 大字玉川出身



調べるうちに行きついたのが、当時、内装木質化の普及を行っていた、ときがわカンパニーの関根雅泰さん。山口さんが33歳のときのことだ。関根さんは、内装木質化の普及だけでなく、起業家を育成する『比企起業塾』を開催していた。やりたいことが会社ではできない。それなら自分でやるしかない。つまり『起業』だ。勇気を出して訪ね、自分のやりたいこと、思い、全てをぶつけた。それをひも解き、整理し、事業につなげることを関根さんは得意とした。そこで、身の丈にあった範囲で仕事として始めること、長く続けることを学んだ。そして、山口さんは起業塾の3期生となった。卒業した今でも関根さんに足しげく通う。「関根さんは、経営の師匠です」そして、山と建築を結ぶ仕事を始めた。山から切り出した原木を材木にする『製材』だ。製材機も購入した。「これからは、まずは製材をメインに、コンパクトに仕事をしていきます」。ときがわ町には、山口さんがやりたかった『木に家をあわせる』ことを実践している建築の師匠もいる。「心強いですね」取材当日は雨。「よく雨なんですよ笑」。勇気を出して関根さんに会いに行った日も、雨でした。小さく起業した雨男は、雨とともに山に恵みをもたらそうとしている。

知った。自身も起業をしていたので、見に行ってみたところ、運営していた『ときがわカンパニー』の関根雅泰さんと出会う。関根さんは、会社から独立し、個人で都内の大企業相手に研修を行う仕事をしていた。しかも、住まいはときがわ町にあるという。栗原さんは、「そんな働き方をしている人がいるのか」と驚いた。関根さんも、栗原さんの「姿勢の良さ、目をそらさない視線、誠実な語り口」に華があると感じ、一目置いた。その出会いで栗原さんの「仕事の選択肢が広がった」。出会いから1週間後、関根さんは、自身の企業研修の中で、栗原さんに『整体セッション』を依頼した。評判が良く、それから関根さんの企業研修になくはならないものとなる。同じ会社ではなく、独立した起業家同士として協力することになったのだ。そこから、栗原さんは企業研修講師という働き方が増えた。さらに、関根さんが実践している、大企業を相手に個人で仕事をする方法を身につけた。現在では、整体と企業研修を行う会社と、地域商社の2社を営んでいる。働き方の自由度、充実度、収入までも既にコントロール。自身の『やりたいこと』と、『自分の時間』を両立させている栗原さん。そして、起業家の日々は続く。

1 幼少期の栗原さん。子どもの頃から現在までずっと野球を続けている。2 都内の一等地では、完全予約制の美容矯正の仕事をしている。3 企業研修内で行っている、栗原さんの整体セッションの様子。

